明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回·二日發行

家庭雜誌

第三巻
第三號

明治三十八年三月二日發行

簡易家庭談（渚山、緑亭、安藤生）……一
一妻の呼び方　二家の器財　三愛の樹
雜感（金子喜一）……九
富士（兒玉花外）……一〇
スープの話（緑亭主人）……一一
不良乳の話……一四
まあちやんと僕の家……一六
婦女子の髪の美……一七
人と心理書……一九
御前崎に遊ぶ……二〇
二葉園藝（エデンの花守）……二一
●花守の課業●盆栽日常の心得●櫻の栽培法●裝飾用の花
子供より受けたる教訓（渚山）……二五
筆ついで……三〇
●公明正大の生涯　●香奠返しと出産披露
●財産に對する觀念

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる
▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども倘現社會を忘るゝことなし
▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す
▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子教育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週 月曜

定價一部三錢 三ヶ月卅七錢 半年七十二錢 全國無郵税

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず
▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず
▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり
▲夫人令孃女教師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

東京市牛込區東五軒町四一
發行所 (電話番町千三百六番) 婦女新聞社

◎本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料――特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意
一、本誌は毎月一回(二日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。但し郵券代用の節は五厘切手にて一割增の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年二月廿八日印刷
明治三十八年三月 二 日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎
印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助
發行所 東京麴町區中六番町十番地 由分社
大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青年文壇の覇王

復活せる新聲の新生面を見よ

▲新聲は復活せり!!

▲泰西名畫數葉

文學美術雜誌 **新聲**

第十二編 第一號▲ 二月一日發行

▲每月一回一日發行▼
▲定價一冊金拾五錢▼
▲郵税一冊壹錢五厘▼
▲六冊前金九拾四錢▼
▲十二冊壹圓八拾三錢▼

▲新聲は新聲也文壇の中立派なり無所屬黨なり贊を天下の青年文人と求めて遠慮會釋なく中央文壇を睥睨せんとす由來天下機運の率先者たるとは常に青年の任務なり今や活動的新日本の勃興的機運に倡ひこの乙巳の新春を以て我が新聲は復活せり雛鶴の聲なる我が新聲が去來如何の方面に發展し如何の方面に如何の活動すべきか本誌第一號の要目を見よ

▲盛に投書を歡迎す委細は本誌を見よ▼

復活號要目

▲如何にして我が國民樂を刷新すべき……坪内逍遙
▲悲みの極……緒方流水
▲都市生活の趣味……草村北星
▲書籍の生命……千葉江東
▲春の村……齋藤弔花
▲山上の孤屋……窪田通治
▲人生行路の詩……兒玉星人
▲相思怨を讀む……宮田修
▲經調急調……文界風聞記
▲新春記……平尾不孤
▲高田と河合……蹊王
▲正月物語……上田葦舟
▲君去にたまふと勿れ……無名氏
▲復活の辭

▲荻聲水語……松原至文
▲野川の夕べ……石丸紫水
▲薄暮の廻閃……藤井倬川
▲まこと……淺川すみ子
▲造り花……東希微
▲しら藤……野琴子
▲若葉かご……芽峰生
▲おもかげ……津倉香洋
▲戰の曲……北辰
▲うもれ草……池元寄鼠
▲我がなやみ……鍋岡生
▲詩人と信仰……船勢銀杏
新聲記者

發賣元 東京市京橋區尾張町一丁目 合資會社 隆文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社廣告

家庭雑誌 合本第二卷

壹冊 價七十錢 郵税十錢

例に依て第貳卷十二冊の合本を調製しました。總クロースで頗る美麗、且つ堅固に製本してありますから、永く座右に備へて愛玩するに宜しく、又家庭間の贈り物に致すにも、極めて妙であらうかと思ひます。

注（右合本の御注文には當分の内郵税を當方にて負擔致します。）

由分社廣告

由分社取次書籍目錄

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

家庭の新風味

堺枯川著 全六冊合本 定價壹圓 郵税八錢

▲第一冊家庭の組織 ▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學 ▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂 ▲第六冊家庭の教育

家庭夜話

堺枯川編輯 全三冊合本 定價壹圓 郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

小説 火の杜

木下尚江著 價三十五錢 郵税六錢

妾の半生涯

福田（舊姓景山）英子著 定價三十五錢 郵税六錢

青年と生存競爭

（本書に限り定價の二割引）

安藤兎毛喜著 定價二十錢 郵税二錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌前號所載記事要目

●家族數制限問題……金子喜一
●家庭者の覺悟……安藤生
●日本女性の同情心……渚山生
●スープの話……綠亭主人
●善きオヂサン……堺枯川
●競爭と協同
●梅の植込方○椿の移植法○寒葵
○其他質問應答（園藝欄）
●內氣なる妻……渚山生
●女學校割烹參觀
●婦人の政治的運動○所謂義理
○子の結婚（筆ついで欄）
●家庭と感化力……安部磯雄

週刊 直言 新聞

▲本紙は第二卷第一號より紙面を擴大して平民新聞型八頁と爲し、發行數を增加して每週日曜發行となし、日本社會主義の中央機關を以て任せんと欲す。

▲本紙の特約せる執筆者は左の如し。

原霞外　山田滴海
堺枯川　石川旭山
木下尙江　西川光次郎
白柳秀湖　小野有香
幸德秋水　加藤時次郎
小川芋錢　松岡文子
小田賴造　山口義三

▲定價一部郵稅共三錢五厘、廿部前金郵稅共六十五錢、五十部同一圓六十錢

▲御註文は便利の爲成るべく一手大賣捌所平民社へ御申込を乞ふ。

社會主義中央機關

發行所　東京府花原郡入新井村新井宿　直行社

一手大賣捌所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社

福田英子女史著

妾の半生涯

▲大阪國事犯の女傑景山英子が自叙傳たる本書は今第四版印刷中也▲本書の名聲や遂に此小島國内に止まる能はずして、今や海洋千里を越えて歐米の讀書界を動さんとす▲著者の知友獨乙人某は本書を英語並びに獨語に飜譯せんことを需め來る▲以て本書が如何に世界同胞の衷心を激動せしめつゝあるかを知らん▲蓋し本書は世界の婦人に對して其覺醒を迫るの警鐘なり
▲定價三十五錢郵稅六錢
▲著者肖像入裝釘美麗

東京神田表神保町
東京堂發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

簡易家庭談（三題）

▲妻の呼び方

近頃世の優しい男子仲間では、妻の呼び方に就て種々と苦心して居られるやうで、既に本誌の第二卷中にも、些細乍ら此問題に關する投書が載つて居る。記者の考へでは、何もさう彼此と迷ふには當らぬ。無論其名の下に『サン』を附し——キヨサン、濱江サンと呼ぶ事を以て、明治式の一般の風と定めたいと思ふ。こゝ數年前迄は、自分の妻をサン附に呼ぶやうな人は更になく、偶々洋行歸りなどの極めて西洋がつた人が居て、此式を用ひやうとする事があると、『彼はサイノロチストである』の、『婦人にのろい奴』だのと、盛んに世人の冷評の的となつたもので、大抵の家庭の主人は矢張『オイ、コラ』で押通して居たのである。

さて此從來の『オイ、コラ』たる、[illegible]法に依ると、全く男子の荒々しい性質から出た自然の聲であるとの事だが、記者自身は尙ほそれよりも重き原因を階級思想の上に見る。即ち今日にあつてこそ『オイ、コラ』は如何にも無情に不作法に聞えるが、妻が家長の單なる隷屬者であつた時代には、此樣な呼捨ての風習が産れたのも、強ち不思議な事ではないらしい。併し乍ら、もう昨今の時勢に於ては、斯る古い思想の子が何時迄生存して行けやうとも思はれぬ。そして、敎育のある新趣味の家庭では、この『オイコラ』の不都合不體裁なるを理性の上に能く認めて居る。

それなら、何故に其新思想の子が形式となつて、今少し速に明治の家庭を飾らぬのであらうか。惟ふに、それには從來からの風習が根強くも殘つて居て、新しき理性の勢力もこの風習を打破る事が出來ぬからである。こゝに習慣と云ふもの丶力は恐ろしいもので、其證據には、今日吾人が妻に對して新式の呼方を試みや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うと云ふ段になると、其前に乾度他人の批評を恐れ、人前を憚り、私に顔を赤らめなどする事が往々ある。それが爲に、多くの人は折角の企を實行せず、其儘愚圖々々と何方附かずの境に立ち、甚しきは場合場合に依り『オイコラ』と『、、サン』の使ひ別けをして居るやうな新夫も少くない。

女に「のろい」と云ふと語弊があるが、男が女を大事にして優しい言葉を用ふる事は、其内容に敬愛の意味が含まれて居る。されば、勇が看板の男子に貴き一面は、慥にこの女に優しいと云ふ點にあるので、『彼奴は女にのろい』とか『優しい』とか、他人からどんな批評を受けたからとて、其所爲で男子の器量をこそ擧げ、恥しい事などは決してない譯である。往時の武士に就て見よ、女風情とか、何とか云つて、無理に婦人に對する自然の愛念を抑壓し、只々蠻勇と冷刻とを以て男の裝飾と心得て居た猪武者に引代へ、能く女性を解して其美を味ひ、太刀を採る片手に、戀歌を添えし梅の一枝を携へて居るやうな風流武士が、どれ丈奥床しくして且つ貴く見えたか。縱しや事業に失敗しても、靜御前を飾りとした源義經は、兄の頼朝よりも何處かに可愛い所があつた。

兎角日本に產れた吾人男子は、小供の時から女は一種別世界の人間のやうに考へさせられて、敎育されたやうな傾きがある。この理由の一つは、例の『男女七歲にして』主義が根となつて居るので、即ち、男女間の戀愛を甚く恐れた所から（其癖少しも實は擧がらぬ。）唯單に兩性を遠けて置けば善いと云ふ皮相な見に力瘤を入れたのである。其結果、男女は親しく相接して、互に至妙な美點を味ふ機會を失し、終に男性は女性の美所を知らず短所も知らず、代りにまた女性は男性の長所も弱點も併せて解する事が出來なくなつて了つた。これが若し、小供の時分から淸く美しく、所謂樂んで淫せずと云ふやうな調子に交際をさせてあつたならば、其男女の間には今日の如き可笑しい性質の分らぬ障壁が建てられずに濟んだかも知れぬ。

我國の小供社會では、女に對していやに强がり、强

威散らし、人を人とも思はぬ程にするのが其社會の名譽となつて居る。小學中學の學生などは特にさうである。尤も、折には其兩親に善き心の人を持ち、女などにも優しいと云ふ氣質を持つて產れた子供がないでもない。けれども、口惜しい事には周圍が惡く、「女にのろい」など〻云はれるのが厭さに、つい〳〵折角の美しい情を殺して了ふ。此適例は電車の中などで能く見る事である。又女に對する言葉でも、「何だあの女郎が。」とか、「お多福め。」とか、口ぎたなき言語をさも得意氣に囀つて、自ら快しとして居る子供がある。併し、これ等を仔細に其心に立入つて觀察して見ると、必しも女が憎いのではなく、多くは友達などに「彼奴は何時も女の肩を持つてやるから男の仲間でない」の、「彼奴は女好きだから女に叮嚀だ。」のと、顏を赤くするやうな惡口を聞くまいとする弱い心が、主なる原因となつて居る。

それで、斯う云ふ子供が他日長して妻を迎へる事になるならば、矢張彼は「サイノロヂスト」と友人から嘲けられるのを恐れる心から、人の前などで、妻に對する言葉は自分の持つて居る言語中の最も賤しきものを用ひ、同時に、態とらしい冷淡な振舞を其妻に向けるやら、斯くして僅に自分の妻に「のろ」からざるを證明すると云ふ事になるのであらう。『オイ、コラ』なども亦此一例と見て差支へない。

記者は此點に於て大に不服でならぬ。實際其妻に情愛と云ふものがないならば知らぬこと、眞箇相思の間柄であり乍ら、其愛を他人に向つて發表し得ぬとは何と云ふ不自由さであらうか。西洋では、男子が弱き女子をいたはるの結果、今日の風俗に多少の弊害を伴うて居るらしいが、併しある點迄はこの西洋式に就くの必要が充分あらう。かの海邊や郊外で、夫婦者が幾組も〳〵相集り、共に腕を組み、共に身を横へて隔てなく遊んで居る所を見たものは、誰でも其和樂にして艶麗なる光景に打たれて、我國風の殺風景なるに物足らぬ感じを起さぬ人はないだらう。

近來西洋式のハイカラ夫婦の種蒔が稍々功を奏し、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若い學生仲間にも段々此女子に「優しい」と云ふ美德が認められて來た。又、近頃出版する小說などにも、其主人公夫婦を新趣味の人物に扮したのが餘程多くなつて來た。斯くの如く、若き男女間の思想が年と共に革り行くのは、寔に慶すべき事柄で、記者は此際一時も早く右の新風俗が全國の敎育ある青年男子の間の大勢力となる事を希望する。それで、今吾人が妻に對して「、、サン」と呼ぶ事は、とりもなをさず、此新式の階段を踏むに至る最初の一歩と云つても宜い。實に肝腎な出發點である。

又今日小學時代にある少年に關しては、其父母或は監督者が充分に心を用ひ、從來の惡風から全く離脫せしめる工夫を講せねばならぬ。特に、同年輩の少女に對し、陰に愛念を持ち乍ら、陽に冷淡を佯るやうな風をなさしめず、平生でも機會さへあらば、共に親しく温き言葉を交はせ、自然に女性の優しく美しき點を印象せしめて、少年が少女をいたはるは、恥辱にあらで善事であると云ふ觀念を、頭に植付けるやう心掛けねばならぬ。（以上、浩山）

▲家の器財

何時やらの婦女新聞に、下女が皿や茶碗を壞すのを防ぐ法はないか。」と言ふ小言が出て居ましたが、之につき少しく私の考へを述べて見ましよう。

お小言にもある通り臺所でガチヤンとやれば、奧でいゝいゝソレまたと云ふ聲が聞えます。下女の方では成るべく主人へ知らさぬ樣にしたく、主婦の方では下女の過失を許かんとし「あれは先祖から傳つた大事の皿である」とか、「これは價が幾ら〳〵でかけがへのない茶碗であつた。」とか、成るべく下女の失策を過大に見て、之を近所隣へまでもふれ廻る樣な風がある。そこで一方は怒る、一方は怨む。終に兩者の間に取り去り難き墻壁が出來、甚だ不愉快な風を家庭の一過に起します。

私の考ふるには、我々が所有する器財や道具の內、人間の德性を害ふてもよいと言ふ程貴重なものはなく、又そんなものが此世にあるべき筈ではない。併し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人間の弱點として、自分の大切にするものを人に壞されて腹が立つと云ふ恐があるならば、之を豫防するの策として、何うしても壞れぬ樣な方法に保存するか、或はそんな怖ろしいものは初から所有せぬ事が良いと思ひます。

私の家には幸にしてそんな貴重なものは一切無い。之を手放して仕舞へばかけがへが無いとて失望する程大切なものは更にない。尤もこれは自分だけの事であつて、他の家庭には高價なる貴金屬もあるであらう。美術品もあるであらう。又由緒ある骨董品などもあるであらう。現に私の内なりとて昔から傳つた二三の器物や、又遠方の友人から送つて吳れた品物など、之を失へば幾分か惜しいと言ふ程のものを所有せぬではない。何時やら轉宅の折、大字書を載せる臺をメチャ〱に壞され、大分困つた事がある。これは十圓餘出せば直ぐ丸善で買へるものであるが、左りとて錢の都合でそれにも及ばず、今に机の脇へ横倒しに置き、依然として字引の用を足して居る。此程も火に强いのを誇る積りで、わざ〱海外へ註文したロッキンハム燒の茶瓶を二つまで壞され、又それと同時に送つて來た二ッケルの首輪を犬がどこかへ捨てゝ來た。何れも多少惜しくない事はないが、決して腹を立てる程のものでない。

私は他人に取扱はせる器物は之を破損しても左まで惜しくないものを用ゐ、自分の職業に要する器械の内でも、一寸代用品の得られぬものや、精巧な顯微鏡の樣なものは、之を他人に委ねずして自ら保管して居る。故に私の内で何か過失のあつた時、比較的貴重なものは自分が壞したのであつて、何處へも祟つて行き樣がなく、他人が損じたものは容易に代りを得られるものと極めて居ります。私は之を一般の家庭に應用し、平生下女に其扱ひ方を任す器物は、あまり貴重な物を用ゐぬ事。又人から壞されて、腹が立つ程大切なものが若しもあるならば、自ら之を保管して、決して他人の手を煩はさぬ事にしては何うかと思ひます。元來人間と云ふものは少しく生活に餘裕が出來ると、色々の裝

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

飾品や骨董物を弄びたがる癖がある。それが眞の美術眼とか、考古學的の智識から出る事であれば敢て差支へはないが、唯富を誇り奇を好むの心に任せ、之を取扱はせる雇人等の迷惑をも考へず、無闇に我樂多物を重寶がる杯は甚だ宜しくない事である。私が嘗てアメリカの或家で働いて居た時、其客間に備へられた卓子と書架は、精密なる彫刻を施したもので、其主人は非常に立派なものであらうと誇つて居りましたが、其彫刻の間に塵芥がつもり、之を掃除する私にとつては甚だ困難を感じました。又或日其家の主婦が至極薄くして奇麗な硝子の水呑一ダズンを買ひ求め、大變美術的に出來て居るなど丶賞めて居りましたが、まだ一度も使はぬ内私が之を洗はんとして一箇を壞しました。其時には大分小言を食ひましたが、後色々の話に移り、私は塵芥の溜り易いものや、壞れ易いものがアメリカの美術であるのかと詰問して大笑になつた事がある。

日本では近頃中以上の家庭に於ては、其生活の狀が追々貴族的に流れ、濫りに美術品や裝飾的のものを、平生の器物に應用するの傾きが見えます。そんな人に限り、之を保管するもの丶苦心も察せず、徒らに腹を立てたり奉公人の惡口を言ふものである。

茲に於て私は世の主婦たる人に望みたきは、第一器財の內、特に貴重にして一國の寶とも言はる丶程のものは、之を自己の專有とせず、美術館か博物館の樣に其保管を委托する事。第二私有財產の內、之を破損して腹が立つ程危險なものは、其扱ひ方を他人に任せず、自ら之を處理する事。第三日常下女などに使用させる道具類は、成るべく安價にして且つ堅固なる物を選ぶ事。第五平生から過失と破損の哲學を考究して、之を下女に敎訓する事である。

右の內第五の希望に就て尙說明せんに、凡ての過失と破損には、必ず然るべき原因と一定の理由があつて、決して偶然に起るべきものでない。從つて之を未然に防ぐの方は、主婦たるもの丶常に心掛けて置くべき事である。喩へば鐵瓶の湯が沸きかへつて灰神樂をあげるは、水の入れ樣が多過ぎる爲とか、棚にあるものが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

辷り落ちるのは、其位置が前方に偏して居た爲とか、匙の上に液體のものを注ぎ込めば、それが匙の彎曲線に從つて迸り出るとか、柄のある珈琲茶碗を重ねて持てば、すべらず、恐があると言ふ樣な點を豫め研究し、事が起つてから咎めるよりも、其原因を見附け次第、自分も氣をつけ又下女にも注意するが良い。尙私は此機會を以て主婦と下女の關係につき少しく述べたい事がある。今日多くの家庭に於て、下女を以て自分と互角なる競爭者の如く思ひ、其過誤と失策を世間に吹聽し、『下女の爲した事が惡いか、但しは私の小言を言ふのが無理か、ヨウマア聞いて下さい。』など丶口說き立てる人もありますが、それは以ての外の心得違であつて、苟も主婦たるものは、下女を見る事恰も自分の妹の如く娘の如く、其弱くして不束なる所を憐み、之を敎導するに務めねばならぬものである。一は主人と言ひ一は僕婢と呼ばる丶大差別は、抑如何なる所から生じて來たか。それは言ふまでもなく生れ乍らにして祖先の財產を承繼ぎしものと然らざるものと、富める家に嫁すると貧しき家に成長すると、敎育を受くると受けざるなど、唯境遇の如何によつて此階級を生じたるのみ。決して人間本來の差別によるものではない。共に此世の活劇場に立ち、一は丸髷を結びて火鉢の側に座り、人を使ふの態に粧ひ、他は襷を掛けて流しもとに立ち人に使はる丶役に扮するも、一たび現社會の淺黃幕を切つて落せば、何れも皆赤裸々の俳優の如く、何の見さかひも付くべきものでない。故に主婦たるものは、現社會から特別の恩典を受けたる事を感謝して、薄命なる下女の境遇を憫み、彼等の勞働を購ふに僅かの給金と粗食を與ふるの外、尙物質的にも精神的にも之を敎導扶助するのが、則ち社會に對する義務である事を考へねばならぬと思ひます。（以上、碌亭）

▲愛の樹

世には大きな聲で自ら社會改良家などと稱へて、いろ／＼の奔走やいろ／＼の言論に忙しがつて居る人達もありますが、私共の考によれば、社會の改良とは

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

畢竟其社會を組立てゝ居る所の礎たる、各個家庭の改良より始まるべきものであつて、苟も此踏みだしの第一歩が間違つて居る樣であつたらば、決して圓滿な、完全な、そうして幸福な社會の改良は來るものでないと存じます。世の社會改良論者もよく此點に注意して貰はねば、所謂勞して効なきものとなるであらう。

さて、然らば其家庭の改良は如何にして來るかと申しますれば、矢張り前述の筆法と同じことで、私共は其家庭を組立てゝ居る所の礎たる、家族の人達の家庭其者に對する考へからして、改良することが手始めであると考へます。家庭改良も先づ此點を第一歩として歩み出さねば、前途に迂回の愚を見ることが多からうと思ふのであります。

家庭其者に對する家族の人達の考へから改良するとは、抑々どんなことでせう。

一言にして云へば、家族は互に彼も我も皆な『愛』と名づくる同一の樹の枝だと悟ることであります。『愛』と云ふ樹から生へ出た枝であれば、其枝々互に其幹樹から滋養を受けて生育して行くので、古るき枝もあらうし、新しき枝もあらうし、枝のさきからは春來る毎に若芽も出でやうし、花も咲き、實もなるであらう。若芽が出たり、花が咲いたり、實がなつたりするのは、家庭にやゝ子ができたり、「およめいり」をしたり、「およめ」がきたりすると同じである。又枝から芽が出るのは、兩親があつて子が出來るのと同じで、矢張其はんもとは愛の樹の屬に相違はない。花が枝のさきに咲けばとて、誰も枝の花だとは云ひますまい。矢張り其樹の花であります。この道理をよく辨へますれば、親も子も兄弟も夫婦も姑舅も、皆是れ『愛』と云ふ樹に連なる枝や葉や花や實に過ぎないではありませんか。何處に「へだて氣」がいりますか。何處に不和を生ずべき餘地がありますか。主人顏を振りまわして、妻子を奴僕の様に見下したり、舅姑の位地を賴みて、嫁いぢめをしたりするやうなさもしき考へが何處から起るせでうか。

此理を推し擴むれば、各個の家庭は亦大なる愛の樹から生へ出で丶居る所の枝であります。此枝々をば總稱して社會と云ふのでありませう。更に推し擴むれば、森羅萬象皆大なる愛の樹の枝であります。總ての星總ての世界も亦一つの大なる愛の樹の枝であります。何物か愛の樹に連ならずして存在して居りませうか。誠に愛の樹は一切のもの丶幹樹であります。

それでありますから、今日の家族の人達に最も先きに考へて戴きたいのは、主人と云はず、主婦と云はず、舅姑にも花嫁にも、皆互に同一の愛の樹の枝であつて、此愛の樹全體が即ち我家庭であるとのことであります。唯此一ツのことさへ考へて戴いたら、平和親愛の温情は人達の心々に泉の如く湧き出で丶、極めて幸福なるホームを造ることが出來、亦隨て社會の改良も完成せらる丶こと丶堅く信じます。（以上、安藤生）

●雜感

ケムブリツヂ市に於て　金子喜一

▲社會主義にも春あり

社會主義にも春は來るものぞ。吹きまくる北風の、何時しかその影をかくして、肌心地よくそよそよと春風のさそひそめむ時、誰かは花に思を寄せざらむ。氣高き自然の意をつくせとて、その春を飾らむ花やいづこ、花やいづこ。

やがてこむはるをかざれとわがねがふ
こ丶ろをくまむひとはいづこぞ

▲心のねがひの生活

富貴、そは吾に於て何かあらむ。地位そを吾將た何とかせむ。名譽そは遂に吾を誘ふに足らず。吾がゆく道は唯だ一つのみ。吾を平和に導びくの道、吾に眞個の幸福を味はしむるの道は唯だ一つなり。世間の是非吾に於て遂に何かあらむ、吾人の幸福はこの自信と常に併行して存在す、所謂心のねがひに生活するもの。

わがゆかむみちはこのみちわれがゆく
みちはかしことさそふひとあるも

富士

兒玉花外

夕暮、京橋を堀に添うて春といふに枯槁吟行した。不圖頭を擧げると、家々の彼方、木々の頂を越えて、遙か〳〵西に當つて烟霞を隔て、ぼんやりと見えたのは富士の姿であつた。懷しき芙蓉の峯が、黃泉の吾母が面影に立つ樣に、薄暮の中に現はれた。噫、其時の予の心地――翼あらば飛んで行きたやと、身を顫はしたは無理ではなからう――思出す、先年甲州の憂旅に、予が父となり母となつて、慰められたのは今見る富士！朝夕余が沈鬱の氣を引立せたのは、彼の雄大不二の山だもの、今春東都に落魄の夕、圖らず見たのは、昔の戀人に遭つた思情がする――而も此戀人は、年々の白雪にも老いず、舊の如く若く美はしい――で、予はこの刹那、胸に溫い血は湧き、氣は心頭に昻じて衝天の勢となつた。路行く人は嗤つたであらう、自分は何となく淚の流るゝほど嬉しく、知らず〳〵高歌放吟して、夜の街に入つたのである。

余は最早悲まぬ、富士の見える處は吾が故鄕として、樂しく勇ましく奮鬪を續けるであらう。吁、神は、家庭なく哀しい運命の人の子にも、「自然」てふ慰籍者を與へる。然り、山は啻に鳥や獸の棲家のみでない、亦人間の靈の隱家である。否、鳥獸も人間に怡樂を與へるのだ。余は殊に花を愛するものであるが、花のある地は到る所故園であつて、いつも花嫁の如く微笑して迎へてくれる。洵に、茫々無邊の天地の間、仰げば靑々の山あり、伏せば美はしい草花あり、人間全く愁ひ悲むには足らぬ。余は茲に家庭なき不幸な人に告げたい――夫れが公等を泣かしむる運命ならば、常に「自然」に對つて念とせよ、さらば山川草木は、必ず有情の目を以て君を視るであらう、何の此世に淋しいことがあらうか、英國の詩聖オーヅオースには道傍の草花が淚をもつて語つたが、寄邊ない時に、公等にも思はぬ慰籍があらう。否、平和の家庭ある幸福の人と雖も、「自然」の美を眞から見る目のない人は、高尙な人といへぬ、樂みの多い方でない、廣い天地に生を享けた甲斐がないのである。余は富士を見た感じの有の儘を、悲哀の運命に顚された人に告げる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

スープの話

緑亭主人

下

スープ學の各論に渉り、其種類を悉く擧げるは甚だ困難な事であります。故に茲には唯其内の重なるものだけを記して置きます。

▲●●●●● 野菜スープ　葱胡蘿蔔馬鈴薯蕪菁セレリ等を可なり大きく切り、ストックを以て一時間餘り煮、充分軟かく成つた頃、其汁を鍋に入れ、之へ右の野菜の内煮崩れて行かぬ所を選び、體裁よき形に切りて鍋へ戻し、鹽と胡椒にて味をつける。野菜の分量はストック二クオートに一封度位の割合で宜しい。

▲●●●●●● スプリン・スープ　綠豌豆花椰菜アスパラガス若き胡蘿又は球葱の様な春先に出る軟かき野菜を適宜の大さに切り、色の變らぬ程に一寸鹽ゆでにし、ストックへ入れて味を附けたものです。

▲●●●●●●● ジユリエン・スープ　是は野菜スープと同じ材料を厚き短冊形に切り、少しくバタでいため、それをストックへ入れたものです。

▲●●●●● トマト・スープ　濃きストック一クオート（凡そ四合）をアルミか琺瑯掛の鍋にて沸かし、大きな生の蕃茄三四箇を細かく刻み、若くは罐詰のトマト一斤を加へ、鹽と胡椒とバタで味をつける。蕃茄を入れてからは、一度ザット煮立たせるだけにし、其上沸騰させては良くありません。又曹達を以てトマトの酸性を中和し、之に牛乳を加ふるの法もありますが、ソンナ不自然な事をしても左程旨くはありません。

▲●●●●● ポテト・スープ　大きな馬鈴薯五六箇の皮をむき、よくゆで、摺潰し、ストック二クオートに加へて味をつける。ストックの代りに牛乳と鶏卵大のバタを用ゐても宜しい

▲●●●●● 豌豆スープ　綠豌豆を莢のまゝ五合計りを求め、其莢だけを薄きストック二クオートと共に半時間餘り煮出し、滓を取り去り、更に豆を入れて色の變らぬ程に煮、鹽と胡椒にて味をつける。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これより以下に記すスープの內、特に濃厚なるものを作るには、主に葛粉、片栗、麥粉、米の粉の類を用ゐますが、何れも前以て少しの冷水か、牛乳か、肉汁に解いて置き、よく煮立つスープを攪ませつゝ、其中へ加へます、麥粉を水にとかず、バタで焦して用ふる時は、一種芳ばしき味になります。是等を總稱して(Thickening)と申しますが、このシックニンの這入つたスープは、すべて寒冷の時候に良く適したものです。又濃厚なるスープへは鹽と藥味を大分餘計に加へねば利が惡いものです、尙注意すべきは素人がシックニンを入れ過ぎる恐のある事です。

▲●●●●豌豆スープ(又の法)　綠豌豆五合ばかり、よくゆでて摺潰し、裏漉にかけて滓を去り、其煮汁とストックを大凡等分で二クォートとなし、別の鍋で沸し之へ漉したる豆を加へ、麥粉のシックニンを入れて味をつけます。此スープの色を良くする爲、豆をゆでる半頃から、菠薐菜の葉十枚計りを加へ、共に裏漉にかければ宜しい。

▲●●●●●●ビーン・スープ　佛種菜豆(白いんげんでもよろし)一合計をよく洗ひ、一夜水に浸し置き、翌日殆んと潰れるまで煮て、之を裏漉にかけ、二クォートのストックへ入れ、鹽、胡椒、シックニンを以て味をつける。

▲●●●●●●セルリ・クリーム・スープ　塘蒿の莖十本程を取りて之を四五分の長さに切り、ストック二クォートと共に鍋に入れ、十分軟かくなるまで煮詰め、之にクリーム一パイントを加へ、鹽と白胡椒にて味をつけ、麥粉のシックニンを加へます。

スープへ入れるクリーム(乳皮)の代りとして牛乳を用ゐんとせば、之を別の鍋にて沸して加へ、すべての味を附けて後、將にスープの鉢へ移さんとする時、其鉢へ卵の黄身一二箇をよく解かし置き、初め暫くは一匙づゝスープを加へ、後徐々に之を傾瀉すれば、其卵黄を凝固せしめず、殆んどクリーム同樣な味になります。

▲●●●●●●イタリアン・スープ　これはマカロニヤヴアミセリの如き以太利麵を入れたスープで、何れも四分位の長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さに切り、一度ゆでこぼして軟かくし、後スープへ入れるのです。これには日本の素麵と乾饂飩を代用する事も出來ます。

▲**セーゴ・スープとタピオカ・スープ**　何れも先づよく洗ひ、十人分に半茶碗位の割合で、ストックへ入れて透明になるまで煮ます。尤もセーゴは半時間タピオカは一時間水に浸して置かねばなりません。

▲**フイシ・ストプ**　魚の肉骨あたまとも二斤位を小さく切り、少しくバタでいため、葱人參セルリ等の野菜と共に水一升位の中で一時間計り煮出し、其滓を取り去り、之を牛乳二合と鹽胡椒、及びシツクニンを加へる。

▲**オイスタ・スープ**　新鮮なる牡蠣三合をとり、指頭を以てよくひねり、之に附着する見殼の小片を去り、之に大凡四合の沸湯を注ぎ、よくかきませて牡蠣を掬ひ上げ、其汁を布にて漉し、牛乳二合と共に鍋に入れ、バター大匙鹽及び胡椒を以て味をつけ、炙りたるソーダビスケを添へて食膳に出します。

　スープの製法に就ては、先づこれだけにして置き、之を作つた肉の滓を如何に利用すべきかを少しく話しましよう。前にも述べた如く、肉の大部分は容易に水に溶解せず、其滋養分の多くは矢張り肉に殘つて居るので、適宜の法によつて味を附ければ、立派なる食物になります。其内最も重要なるものを一つ舉げて見ましよう。

▲**ポツテツド・ミート**、スープ滓の內筋や血管の樣な部分を去り、成るべく奇麗な肉のみを選び、之を細かに刻みて擂鉢に入れ、纎維が悉く微塵になるまでよく擂つぶし、餘り乾燥せぬ樣に少しくスープ或は肉の汁を加へ、バタ少々、鹽、胡椒、煉芥子、オールスパイス、蕃椒等の藥味を加へてよく混和し、壺に入れたまゝ一時間計り蒸籠にて蒸し、蓋をかたくして置きます。これを直ぐに食べるには少しの藥味を加へ、長く貯へる積りならば藥味を烈しくし、鹽もいくらか餘計に入れ、又蓋をする前に肉の上へ五分位の厚さに牛脂の溶かしたのを流して置きます。此ポツテツド・ミートはランチ（簡食）の肉として不時の來客に供へたり、又サンドウヰチの間へはさんだり、其外色々の使ひ道があつて、至極便利なものであります。

　此肉の代りに魚肉のゆでたのや、鹽燒の殘物を用ゐ、同じ方法を以て**ポツテツト・フイシ**が出來ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不良乳の話

○牛乳は自然に配合された、功能偉大の滋養品でありますが、一利一害は數の免れざる處で、不良乳から蒙る害毒も亦尠なくありませぬ、不良乳とは營業者の惡手段によるばかりでなく、自然に因て、生ずるものもあります。自然によるものは更に分ちて、細菌の作用に基くものと、生理上に原因するものとあります。つまり自然、人爲の作用によつて其定性を變じたものです。

○先づ自然に基く不良乳から申せば、水分過多乳、青色乳、赤色乳、糸狀乳、苦味乳、鹹味乳、鹽類過多乳、初乳、酸敗乳等であります。

○水分乳は乳牛の消化不良、多水質の飼料、飼料不足等によつて生ずるもので、比重一、〇二七乃至一、〇二九概して稀薄です。青色乳は暑中に多くありまして、向寒に從ひ自然に消滅しますが、夫は青乳菌の作用、又は特種の飼料より起ります。赤色乳は矢張り細菌の作用、刺戟強き飼料、藥品、或は乳房の疾患より血液を混じたるもの。糸狀乳はどろ〳〵して糸のやうに連續する粘性乳で、ミクロコックス丸菌の作用に因り。苦味乳も細菌又は飼料の關係に基きます。鹹味乳は乳

腺疾病のため糖化作用を失ふて糖分を減少したもので、鹽類過多は牛の營養不良或は灰分多き飼料より生じます。初乳は分娩後一週間内の乳で黄色を帶び、一種の臭味を有せるものです。

○酸敗したる乳は多く凝固ります。それは前述の通り乳糖が細菌の作用によつて酸化し、膠のやうな白塊となり、次て凝乳と乳漿とに分たれたるので、尙それ迄に至らずとも酸類の二十度を上れば煮沸によつて凝固します。即ち俗にいふ腐敗であつて、多く温暖濕潤の空氣、取扱の粗濫から生じます。

○如此自然から生ずる不良乳は、多く細菌の作用に基くものであります。通常健全なる牛の乳房内には一の細菌も含んで居らないもので、畢竟牛乳の組成分が其發生、傳播に適當して居る爲めに牛舍、器具の不潔、糞尿、塵埃、其他搾取後の失宜が原因となつて、前項の如き異狀を呈するのであります。但之等細菌の多くは人體に無害なるもの、即非病原的であつて直接疾病の原因とはなりませんが、勿論滋養不足の不良乳です。これ等は飲用者が日常注意を怠らず、口に味ひ、鼻に嗅ぎ鑑定的に用ひられたなら、直に識別することが出來ますから安心です。

○茲に安心の出來ないのは病原的細菌であります。即ち結核菌、氣腫疽菌、炭疽菌、アクチノミコーゼ、流行性鵞口瘡等の乳牛に疾病があつて其病毒を吾人に傳播するものです。其外虎列剌菌、實布垤利亞菌、窒扶斯菌等は他から混入して傳染の媒介をなす恐れがあります、之等の牛乳によつて吾人に該病毒を感染したる事實も少くありませぬ。但牛疫の病毒は人間とは全く無關係であつて、之を人に傳へるものではなく、又疫牛は泌乳するものでもありませぬ。

○次に人爲による不良乳は、營業者の惡手段によりて水を加ふるもの、乳皮を去つた脱脂乳、煉乳澱粉質の混合、防腐藥の加合等であります。

○通常牛乳は御承知の如く何れも全乳と稱せられて居ります。全乳といふのは法律を以て定めた百分中の二、七以上の脂肪分を含でをるもので、それ以下の牛乳は不全乳、脱脂乳と申ます。水を加へたものや、乳皮を去つたもの、又は乳皮を去つて水を加へたものは法定の脂肪を含でをりませんから、マルシヤン乳脂計で檢定すれば直ちに發見されますが、此器を使用するにも一二の藥品や熟練と手數を要しますから、普通素人方では一寸容易でありませぬ。

○煉乳其他を混入して一旦沸煮した牛乳の熱度の過ぎたものは、一種臘樣の臭氣を帶びて居りますから、直に識別されますが、尚癒創木丁幾を加ふれば一層明白です。即ち常乳は青色に變じますが、一旦沸煮したものは更に變色することがありませぬ。

○澱粉質を混合した牛乳、即米泔汁糊汁或は糯米の水搗したものを混合したのは、外状濃厚で異樣の臭味を有し、熱を加へると糊のやうな半凝固物を生じます。之を檢定するには、一旦牛乳を煮て之を冷却し、少しの沃度丁幾を加へて藍色になれば澱粉質を混合した證據です。

○防腐材として、硼酸或は石灰水を加へたものがあります。之を檢査するには、醋酸を加へて牛乳を凝固せしめ、其乳漿を蒸發し、熱して灰樣になつたのを、強硫酸とアルコールを加へて更に熱しますれば、依的兒を發散します、之に點火して青き火焔を發したら硼酸を加へたもので、赤色なれば常乳です。又石灰乳は前の手續で、乳漿を蒸發した殘滓に、硫酸を加へて、白色の沈澱物を生じますれば混和した證據です。

注意　牛乳の事を精密に書いた本が入用の方には、京都の松木氏より一部宛送呈されるさうです

まアちやんと僕の家

枯川先生。

僕はまアちやんの居られる篠田樣と道を隔てた、鼠の巢の樣な家に住んで居て、暇さへあれば四疊半に達磨を學び、十七字を拈くつて、世を樂しく送つて居るものです。

先頃、篠田樣へ東京から來客のあつたことは、妻から聞いて知りましたが、夫が先生であつたことは知らないのでした。それから、まアちやんが篠田樣へ來られたのは、去年の十一月、丁度小坂（近鄕蜜柑の名所）の蜜柑が能く熟した頃、始めて僕の裏へ遊びに來られた。それで、僕が一つ遣らうとすると、妻が夫れはいけないと云ふので、狼狽急いでビスケツトに代へた事がありましたが、渚山先生の「角筈の小有村舍」に所謂「小有村舍の庭の花であつて、人並すぐれて大きい眼、ふつくりと肉の張りきつた豐かな頰の父樣似、」のまアちやんであるとは全く知らなかつたのでした。そして、先生の奧樣が悲しくも昨年ル月十八日に果敢なくなられ—尤も其前よりまアちやんが、小田原の加藤醫師の別莊へ女中と共に行かれたことは知て居たが—其まアちやんが、今僕のお向に來て居られたとは、夢にも今まで知らなかつたのでした。

然るに、僕は今夜餘りの淋さに、少し早く門を閉ちて床に入り、有明の豆洋燈搔き立てゝ、早速今日妻から廻された家庭雜誌を繙きましたが、何時か頁を繰つて先生の「善きオヂサン」迄行くと、僕は初めて合點、いや夫れも是れも悉皆分りました。

僕は先生に未だ一面の識も得ないが、多くの紙上に於ては、旣にく𛀁識であつて、先生が曾て家庭雜誌に書かれた「予が妻の死に就て」を讀んだ時は、思はず同情の念を禁し得なかつたのです。殊に其内の「予が女兒の處分は、予の妻の死より生じたる最も困難の事件である。」といふ節に至ては、僕には其まアちやんの愛くるしい顏がありく眼の内に浮んで、一人私かに瞼を潤ほしたのです。計らざりき、其まアちやんが、今日までも、明日からも、チヨコく と遊びに來られ、あの一番好きな二疋の白兎に、何か遣ては、まアちやんを喜ばせる事が出來るかと思ふと、僕は言ふべからざる感慨に打たれずには居られません。されど、まアちやんは、あの美しい羨むべき好家庭に、更に新に父樣と母樣を得られたのは、先生に於て切ても幸福と云ふべく、且又好きオヂサンとなつて、滿足と思はれるだらうと僕は信じます。即ち、不幸なるまアちやんにも、玆に慥に一道の光明が認められるので御座います。

まアちやんの姉樣逹は、先生がお土產のハントオルガンも、此頃大分上手になられまして、今が今まで聞えて居ります。

紀元節の前々夜　鼠　穴　生

●草木に關する格言

△吾人は緊要なる枝を助けんが爲めに、不緊要なる枝を除く（シエツクスピア）

△良き木に凭るの人は、良き蔭を發見すべし（ドン、クヰゾー）

△歲寒くして、然る後松柏の凋むに後るゝを知る（孔子）

△予は屢々移植せる樹木若しくは屢々移轉せる家族の繁榮せるを見しことなし（フランクリン）

△十中八九の花は、人目に觸れざる地に開きて曠野の空氣に香を傳ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦女子の 髮の美

婦人の髮の毛は其自身旣に美を語つて居る。高價な櫛や笄で其上を裝飾するは蛇足であらう。

近來若い多くの婦人方が、其頭の丸髷、島田、銀杏返しなどに代ゆるに、至極簡單にして衛生的なる束髮(花月卷)を以てしたのは、大に賀すべき事である。これ一つは女學生といふ團體が一般の婦人社會に與へた影響で、これを見ても今日女子の敎育と云ふ事が如何に强き勢力を持つて居るかが略ぼ分る。舊式の眼よりない人は此束髮に就て種々と冷評を下すやうだが、其樣な事には露程も恐れるに足らぬ。漆のやうに黑々と光つて居て、全然彫刻でも見るやうな日本の髷は、最早到底現代の趣味に適せぬ。色は生地で油氣なく、細い柔らかい前髮をふつくりと張出し、草花かリボンの簪を無造作に挿したのは、如何にも淸楚で好いものである。更に十四五迄の少女が髮を「お下げ」になし、派出な色の巾の廣いリボンに、薔薇の花か何かを併せて後に結び添えた樣子は、何と云ふ可愛いさだらう。西洋の少女は十七八迄も「お下げ」にして置くと云ふが、引換へて、十四五にもなると何事を捨て置いても、只「お嫁入々々々」と急立て、智育體育悉く不足勝ちの大人をこしらへて了ふ日本の習慣は甚だ有難くない。これからの娘さんには此樣な習慣を打破る程の勇氣がなければならぬ。丸髷に結つて早く嫁に行く事が決して女の只一の理想ではない。記者などはもう近頃丸髷の奥樣を見ると、何となく――失敬な話だが、其奇麗なおぐしの下から古い思想が見透くやうに思はれてならぬ。

さて、前置はこれ位に致し、記者は右束髮黨の婦人方の爲に、さして肝要な事でもないが、衛生上參考となるやうな點を少しく譯出する。丁度近着の亞米利加の家庭雜誌、ホーム、ヂャーナルを讀んで居ると、料らず此樣な題目に出逢つたのである。

吾人の頭髮と身體の健康との關係に就いて、諸方から質問が來るから、こゝに少し斗り答えて見たいと思ふ。一番早分りのするのは動物を見る事――彼の馬だの犬だのゝ身體を蔽ふた毛は、直に其健不健の晴雨計となるものである。それで、頭髮が拔けると云ふやうな場合に、其髮の美を落すまいとして第一に取るべき方法は、先づ身體の健康、即ち根本の元氣を回復させて行くのにある。それには、食事時間の一定、戶外運動を盛んにする事、深呼吸、乃至入浴の度を增す事などが、其主なる仕方で、此等は髮の美を保たす上に、非常な勢力を持つて居る。

普通頭髮の發育の度合は、大抵一年毎に五吋から七吋迄の割合である。そして、冬季よりは夏向の方が成長が早い。平常から頭髮を大事にして深い注意を怠らぬ時は、其發生の早いのみか、往々薄い毛髮を豐饒にするの德がある。すべての婦人方が頭髮を洗ふと云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

點には、其度數に餘程違つた考へを各自に持つて居る樣子であるが、私の考へる規則は至極簡單なもの、即ち婦人が頭髮を何回幾日間に洗ふべきかと云ふ問題は、其本人の頭皮の清潔不清潔に依て種々に解決せられるのである。いくら一人で定日が來ないと威張つて居たとて、終日塵埃の中に曝されて來たいならば、洗はずに居られぬであらう。畢竟するに、各自の頭髮を何時でも美しく艶やかにして置きたとならば、一週間に二度位は洗ふ覺悟で、其他は毎日ブラッシユ、羚羊皮、並に日光浴、空氣浴などの力を是非借りる事である。尤も、強いて度數の標準を立てよとあらば、私は先づ二週間に一度と云ふ事に定めて置く。

頭髮を洗ふには無論上等の石鹼を用ひ、微温湯に限る事。それに、最も大切なのは洗つた毛髮を拭く時に使ふ布で、其手拭は清潔な柔かい温いものでなければならぬ。これが濟めば、次には毛髮を日光に曝らす事、元來頭髮の發育上には、この日光浴程有効なもの他にないので、一度び婦女子の髮の上に黄金色の美しい光

線を受けんか、庭の小草が一夜春雨の情に浴した如く、忽ちにして活氣と色彩を増すのである。序乍ら水は髮を洗ふに最も宜くない。

次に頭髮に用ひる諸薬品、其他毛髮を美麗にする上の諸方法と各種の注意とを述べやう。

第一に毛髮強壯劑と云ふのがある。その薬品は次の如し。

△レソーシン　一ドラムの六分ノ一
△酒精　五オンス
△蓖麻油　四ドラム
△白露止痛油　六クレイン

これを調合して、頭皮に達する程に各日に塗る事。又世の婦女子の間には、平生頭垢の多きに惱んで居る方がある。これには強性の硫黄一ドラムとバセリン一オンスとで出來た香油を用ひ、一方には血液の循環の善くする爲に、頭皮を始終揉まねばならぬ。

或る有名なる醫家の曰く、「頭髮白きを加ふるは眞に尊敬すべき哉」と。これは、白髮は白髮として置いてこそ眞實の價値があるもの、と云ふ意味で、其裏面に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は正しく白髪を黒くする事の不可能なるを諷刺してある。併し乍らまだうら若き婦人にして、不祥な白髪などを見出す場合があつたならば、私は本人に頭髮の衛生を注意すると同時に、其根本たる身躰の健康を充分に計るやう忠告せねばならぬ。かの藥舗の戸棚に飾つてある『白髪染』劑など丶云ふものは、只一時の色附けである斗りか、時には非常な害毒を其毛髮に蒙るべき憂ひがある。

或る婦人はまた餘り毛髮が豊か過ぎるので、有難迷惑を感じて居る事もある。これに就いては、又多少藥品の効力を以て、ある毛髮を減損させる方法もないではないが、今は姑らく預かりにして置かう。

最後に、頭髮の道具に就いて云はゞ、其ブラッシュ、其櫛、此等は嚴重に完全に清潔を保たしめる必要がある。方法は微温湯に石鹸を融かせ（アンモニアを少々混ず）たものでこれを洗ひ、再び水で清めて、後日光に曝す事である。それから、右等の道具は各自の所有々々を嚴定し、又其櫛は滑らかな、歯の鋭くない、そして却て粗末な飾りのないものに限る事。要するに、衛生上の注意は頭髮の美に大關係があるものと承知あるべし。

●人と心理書

家庭には是非共一冊の好心理書を備へて置く必要がある。心理學の書物は心理教員の書齋をのみ飾るべきものではなく、一般世の男たり女たる人は、これに終始親んで、各自の平生に應用せねばならぬ。

小説詩歌の如き文學的述作は無論吾人々生になくてはならぬ一大寶典であるが、時としては、其讀者が此等の情の文字に弄せられる結果、其自身篇中の人物と化し去り、爲に肝腎の判斷力と云ふものを失ふやうな事にならぬとも限らぬ。心理書を講究するには聊かも此點に憂がない。心理書の第一の讀み方は、人間の弱點を研究し、これに依つて人間界すべての事情を察するにある。家庭の間に毎度紛擾が絶えなかつたり、親籍同志で喧嘩を仕事のやうにして居るなどは、全く心理學に暗い爲。更に今日の男女の如く、其特長とする所を互に誤用して男尊女卑の弊風を造り、人間の慾心を惡用しては、今日の如き不平等の社會を産出す等、すべて此等の罪は、人の心理を冷靜に研究しなかつた缺點に座するものと思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御前崎に遊ぶ

午山生

余は遠江に生れたので、御前崎の名は余の幼時よりこれを耳にし、口にもし、遠くこれを望み見たこともあつたが、實際御前崎の地を踏んだことは無つたのである。頃日初めて御前崎に到り、余の思ひ浮べざりし風光に接した。御前崎には明治七年に設置せられた、圓形なる煉化石造の一等旋轉白光の燈臺があつて、光達の距離十九海里に及ぶと云ふこの燈臺は七十五里洋(エンシユウナダ)の名と共に高いので、吾郷人は御前崎と云へば燈臺を思ひ、燈臺と云へば御前崎を連想するのである。余はこれが爲めに、人をして遂に雄大なる御前崎の風光其物を忘れしめたかとの感を有するのである。

御前崎は吾遠江の東南隅に位し、太平洋に突出して、西三河の伊良古崎と、東は伊豆の石廊崎に相對し、牛島形を爲せる漁村である。余が途上にて聞きし「御前崎二ツ合の御日待をごろじ、要のそなへに粉はさゝぎ」の俗謠は、御前崎の生活狀態を諷したものである。御前崎は上下の兩部落より成て居て、燈臺のあるところは上御前崎である。

御前崎の海岸は巖礁多く、波の間に點々と現れて一種の奇觀を呈し、斷崖壁の如き岬頭にある燈臺は海拔百七十三尺と云ふとである。燈臺の下に佇立して南を望めば、太平洋は茫々として、眼に一物の入るものもない。余は山陽の雲耶山耶の詩は斯の如き光景を詠ぜし者かと思つた。

余の御前崎に遊びたる日は舊暦の元旦であつて、三々五々と連立て年始の回禮するもあれば、鎭守駒形神社に參詣するもあつた。余は子守をする老婆の、何とやら云ふ岩は那邊であるかと問ひたるに、老婆は深切にも指さしながら、「ソコに白く波立つて見へるが駒形岩で、向うに波の見へるが御前岩(ごぜん)」と敎へられた。平日は岩は見へず、只白く波の立つが見えるのみであるが、三月の大汐干には駒形岩も御前岩も波上に現れ、小舟を浮へて岩上に到れば、岩間にタコやナマコの居ることもあつて興多して云ふ。

余は一町餘の坂路を下つて磯邊に到つた。誰か家の妻女か、波に乳部のあたりまで濡れ乍ら、打ち寄る海草を熊手の尖に拾ひ集めるのを見た。余の寒からずやと云ふ問ひに對し、彼女は只笑ふて「寒いことは寒い。」と答へたばかり。余は岩と岩の間より寄せくる波きわを、東へ〱と四五丁も向ひしと思ふころ、磯は盡きて北に向ひ、又も三四丁進めば左に下御前崎の村落見え、海中には疊を敷ける如き平面なる岩や、禿山の如き岩あり、その岩の上には、名も知らぬ鳥の翼を休めつゝ、脚を波に洗つて居るもある。余は此にて御前崎の風景の賞すべきを知つた。只御前崎の風景でなくて、吾遠江第一の景色であると思つた。余は曾て駿河の興津海岸を見たこともあり、相模の由比ヶ濱に遊びしこともあれど、余はこの御前崎の眺望に比すべしとは思へないのである。

御前崎の景色と云ふも寂寞たる漁村であつて柳もなければ花も紅葉も無い。然し、この寂寞たる浦の苫屋のほとりより眺望すれば、海は遠駿豆の三國に涉りて灣をなし、海を廻る三國の山々、群山の上に聳ゆる白妙の富士、遠く近く鷗の如き白帆、煙りを吐きつゝ馳せる汽船、木葉の如き漁舟、變化するやうで動かず、動かぬやうで變化ある此好景色、雄大と云ふの外に形容の言葉がない。余に若し詩人の筆を有せしめば、此好景色を描かんとの心にもなき空想を起し、吾ながら驚いたのであつた。余は此風光を醉へるが如くに打眺めつゝ、磯邊を十餘丁つとうて村落に入り、再び夏に遊ばんものと思ひながら、歸路に就くべく御前崎を去つたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二葉園藝

エデンの花守

◎花守の課業（三月）

桃の花咲く此の月の課業は、順序から云ひますと、先づ今年の花守としての計劃をせねばなりません。また器具なり肥料なり土地の選定配用などを、未だ多忙を極めぬ此月に於て為なければなりません。それから、そろ〳〵蒔き始めてよいものは葱、菜類、大根、甘藍、花椰菜、石刁柏及び豆類、瓜類、茄子などであります。一體是等は東京を標準にして申上げるのだから、其お積りで聞いて戴きたい。

中旬過ぎると、樹木の種子も蒔き初なければなりません。樹木と申せば仲々廣い意味ですが、此の中には例の植木にして盆に仕立てるものも含んで居るのであります。是等の種子の細いものを蒔くには、餘程注意せぬと失敗します。成るべくは地床を平均にして、板切で抑へつけその上に蒔き、細土を薄く蔽ふて、其上を又俵屑か藁のやうなもので被ふてやるのです。

此月は花守には誠に多忙な時で、蒔きものより先に大抵の植木、果樹の接木、挿木、分植、施肥、移植をせねばならぬ。そうして、是等のことは皆な相當の技術＝大きく云へば＝が入るのですから、我々素人には注意せぬと失敗します。孰れ細い仕事の上のことは折をみて話しませう。

◎盆栽日常の心得

草木の盆栽を好む人にもいろ〳〵あつて、花の咲いて居る時丈けは大切にして右へ置き左へ置きなどして眺めるが、花が散ると投つて顧ぬと云ふのも往々ある。是は餘り感服出來ねど、一つは又た草木を盆養する心得に缺けて居るのだらうから、茲に其大略を御話する。

△盆栽の置場所。物によッて違ふが、成るべくは戸外に置く方がよい。もし眺める為めに室内へ入れても夜はどうしても外へ出すに限る。そうして日光や空氣を適度に浴びさせねば到底立派に育たぬ。尤も蘇鐵、仙人掌、石菖、石斛のやうに丈夫な植物は、潅水にさへ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

注意すれば始終室内に置くもたいした障りはない。

△冬の置場所。寒氣を厭ふものには温室か、穴窯、硝子框などへ入れるがよい。しかし、これは大仕掛だから考へてやらねばならぬ。梅、松、櫻などのやうに寒さに怖ぬものは、外へ出して霜除の下に鉢を埋めて置けばよい。右の他のものには一切冬圍いの必要はあるのであります。

△盆栽と燈火。盆栽は成るべく夜になると外へ出さねばならぬとは先きに云つたことですが、誰れに聞いても、燈火又は焚火が盆栽に害あるを謂ひます。ですから、これに注意せぬとかよわい草花などが、意外な害を一夜に受けて萎れることが度々あります。

△盆栽と灌水。これは最も注意を要します。盆栽を愛するもので是を怠る爲めに時々不測の損害を蒙り、遂に失敗をかこつことが度々あります。で、常に盆中の旱き過ぎぬやう、濕り過ぎぬやうにし、冬には濕に氣をつけて、鉢の中の餘り凍らぬやうにしなければなりませぬ。水生植物は勿論例外です。

△盆栽と肥料。これも當を得ぬもの、其植物の好まぬものを與へますと、又た失敗の原因になりますから、肥料と名のつく物を何んでも施る譯に行かぬ。殊に其の濃淡に注意せねばならぬ。淡過ぎては害は無いが効能は少し、濃過ては害があるばかりでなく、遂に枯らしてしまうことがある。それから、肥料を施るには成るべく根元へやらぬこと即ち少し離れて施ることが肝要である。

△盆栽と土壤。一つの植物を盆栽にするとて、其嫌ひ土を鉢に盛つて植ゑ込むと遂に又た失敗する。で、元生えて居た場所の土、又は經驗ある人に聞いて、眞土を好む物には眞土、砂土を好む草には砂土を與へねばイケませぬ。

△其他の注意。盆栽を愛し過ぎるところから、餘りにヒドク朝夕不潔な手や鋏でイヂる事に最も氣をつけねば、盆栽の爲めに可愛さうでよくない。それから初めに云ふことを忘れたが、灌水はなるべく其の時の氣温(即ち灌水する時の空氣の温度)と同じ温さのものを注

ぐのがよいので、是より冷たいのは勿論害になると思はねばならぬ。また温か過ぎてもイケませぬ。

◎櫻の栽培法

時節柄でもあるし、質問もあつたから少々申上げます。櫻は山にさへ自生するのですから、栽培は至つて容易ですが、手入を怠ると大切な庭の名木も枯れることが間々あります。是れを播殖しますには接木、挿木、實播の三通りによるですが、實播は容易に變つた花が出るので植木屋などでは盛んにやります。孰れも容易我々に行はれるのです。

此樹の手入としては、例の大敵たる介殼蟲を除くこと(勿論他の害)蟲も寒肥(これは習慣であるが)を施すことなどで、他に別に注意は入りませぬ。寒肥はなるべく厩肥、塵芥や藁の腐つたもの、灰、米糠の少許を根の周圍一二尺を離て、埋めてやるのです。

櫻の盆栽は餘り見ぬが、近頃彼の富士櫻と云ひまして、高山口にある山櫻の一種を鉢に上げて愛します。是は何年經つても二三尺を出でませんで、而も花々しく咲きますので誠に適當な種類です。一體櫻は自然に生えて咲くのが見事で、其の性に叶つて居ますのだから、他種類は盆養として價値もなし。鉢に上げることは出來難いのであります。

櫻の栽培で思ひ出しました、近頃ユスラ即ちミザクラ(櫻桃)と云ふのが盛かんに栽培されるやうになりました。是は、花より實を貴びますので、實益の方面から歡迎されて居ります。栽培法は他の果樹と變りは無い。此の實は果物として珍重されるばかりでなく、澤山結實ますから、例に依つて大に栽培せられんことを皆さんに望んで止みません。

◎裝飾用の花

日本人は裝飾用として花を未だ用ゐぬ位ですが、西人は諸種の集會などある時は、必ず花卉を飾るのを以て一の禮儀と致して居ります。今東京で各國公使などの風を知つた人から聞き集めたことを一寸紹介する。

西人は飾花として一般に他花を交へぬのを歡び、盛花などには白花を目出度として珍重し、黄、紫など是

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れに次ぐのが普通ですけれども、獨逸人は白花を不吉だと云つて嫌ひ、大抵紫か紅色のものを賞美して居るやうです。又た前の露國公使(ローゼン男の前)は總て黄色の花ばかり愛されたが、是等は寧ろ異例たるに過ぎません。で他の公使は何れも皆白花に限られ、偶々黄花、紫花などを用ゐても滿足せぬそうでした。而して盛花にするものは、多く季節でないものを珍重する風がありまして、一月より三月頃までは、牡丹、躑躅、鐵砲百合、薔薇、カーチーシヨン、アマリリス、バイオレツト、フリージヤの類を用ゐ。四五月の頃はアチモチ、ヒヤシンス、チユーリツプ、薔薇の類を。六月は薔薇及び紅筋百合、竹島百合などを。七八月は花がありますれど、てんで避暑に出掛ますので、殆んど盛花の休業と云ふ態になります。それから九月十月より十二月に亘つては、四咲季の薔薇、ホクシヤ、菫菊、アチモチ、カチーシヨンの類を用ゐます。以上は大抵珍花と云はれて居るものが多いので、價も亦貴けれど、安物としては、主に其時々の花又はカンナ、ジエレニヤム、ベコニヤの類をも用ゐるのであります。

また一般の習慣として盛花は、餘りに大輪な花よりも小輪のものを多く集めたのを歡び、往々バイオレツトの盛花を注文して、價の廉不廉などは全く問はぬものさへあるそうです。

襟挿としての花は、薔薇、フレージヤ、バイオレツト、カチーシヨン等を第一とし、前記の花をも用ゐますそうな。

花に馬鹿な黄金を拂ふの善し惡しは別として、これは唯だ其の紹介に止るのみでありますから、其お積りで讀んで下さい。

◎花守より

▲杉代三郎君へ。御親切な御手紙ありがたう、其の後御尋の蔬菜の名を記したものを紛らかし、つい〱今日迄返事を延ばし誠に失禮でした。やう〱見付かりましたから取り敢す御答します。

△玉葱(葱頭)、甘藍是は春は三四月の交、秋は十月頃蒔きつけるもの。

△ほうれんさう。うぐゐす菜。これは秋遲く蒔く。

△夏蕪菁。三月中に蒔くのがよい。

▲海南生君へ。仰せの通り肥料のことは、機會があらば語らうと思ッて居たのですから、次號には御質問に併せて「肥料のこと」を少々掲げて、讀者諸君の御參考に致しませう。

▲萩の家君へ。御説の通り土壤のことは、眞土、砂土などいろ〱あッて、素人には其の區別が分り難いこともあります。これに就いても前同様、機を見て何れ御話致しませう。(二月十日記)

子供より受けたる　教訓

私の親しくして居る友達の家に、勇ちやん——本名は勇といふのだが、私はいつもたけちやんと呼ぶので、今年は數年の四つ、十一月生で遲生誕なさうです。其父樣お母樣は、何れも學校の敎員をして居なさるから、平素は婆や伯母樣やが傳をする。色々な人に接する故でもあらうが、思の外はにかんで人見知りなど爲ない、至つて面白い坊ちやんである。兩親の話にも、『勇は何處へ連れて往つても、——知らぬ人許りの中でも、少しも恐れずに遊んで居るから、これ丈は世話がやけなくて宜い。』と云はれたことがある位。殊に昨年の春は兩親共仙臺へ學事視察に行き、一所に勇ちやんも連れられたが、晝の巡視中はいつも勇ちやんはお留守居に、下女達や宿の主人夫婦と一所になつて遊ぶのだが、一日泣きもせずむつかりもせず、夫は〳〵おとなしく、いつでもニコニコとして居たとのこと。歸られてから兩親の自慢話。親の身になつて見れば無理もないこと。

　私の始めて勇ちやんに、お目見えをしたのは、昨年の春で、私が遊びに參つた時に、勇ちやんは二人の兄さんと面白さうにキヤツ〳〵と騷いで居たが、フト私の姿を見附けると、アレは誰だらうといつたやうな顏付をして、私がお出で〳〵をやつたら、ニコツと微笑でパタ〳〵と逃げて往つたが、夫なり切りに隱れもせず、障子の側から片方の目許り出して、私のところを見て居るので、私が振り返つて見ると、俄かに顏を引込まして終ふ。私が止めると亦顏を出し、振り返ると引つ込む、何のことはない、『居ない〳〵バア居た』のお稽古をやつて居るやうなもので、ほんとに可愛らしかつたのです。

　一體私はあまり小兒に好かれない方なので、始のうちは、矢張り勇ちやんにも好かれなかつたが、二度三度と往くにつれて、だん〳〵親しくなり、四度目頃には、私が往くとちやんとお跪坐をして、といつて膝はつかないが、兎に角お禮をするので、私はハイ今日はと輕く頭を撫てゝやると、ヒヨイと顏をあげて、眞圓な眼に何ともいへない愛らしい光を込めて、福やかな兩の頰には今にも溢れさうな、笑を湛へてしげ〳〵と私を見る。其時お父樣は私を指して『あれは誰』と尋ねると『にちむら』とまだ十分に廻らぬ舌でいふ、何といふ可愛らしさでせう。私は殆ど神の福音でもきくかの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ようで、どんなに不快な時でも、その優しい鈴のような、張のある響ある聲で私を呼ばれると、直に氣が爽快して、愉快でたまらなくなるのです。赤の他人の私でさへ、さう思ふ位だから、お父樣やお母樣は、マアどんなにか、樂しく嬉しいでせう。眞に子は愛の柵で、子ほど親の慰籍となるものはないであらう。

子供は天眞爛熳にして一片の邪心なく、且つ模倣的動作の穎敏なのには、驚かざるを得ない。勇ちやんの兩親は何れも煙草は喫まぬのですが、私は吹かすので、夫を勇ちやんはいつの間に覺えたか、或日のこと、私が例の通り卷煙草を喫み始めると、勇ちやんは傍から私に向つて、パッパヨーと煙草を請求するので、何の氣もなく火の附かない卷煙草を一本やると、夫を左手の食指と中指との間へ挾んで、喫む眞似をするのです。其手附がをかしいので、兩親は勿論私までか、思はず吹き出さずに居られなかつた。それは宜かつたが、口へくわへて、フーノーと吹くが一向に烟が出ないもの故、終には火を附けて呉れとの請求。仕方なしに火をつけてやると、今度は烟がプーと出るものだから、勇ちやん大喜びで、お父樣に見せるやら、お母樣に見せるやら。二人の兄樣は、勇が煙草を吸ふとて大さわぎ、罪のなき笑聲は家の外までも響くのです。

勇ちやんは私と同じく、お菓子が大好きで、朝起きた時と、お父樣が學校からお歸りの時は、必ずうまうまを頂くことになつて居るさうです。私も折々菓子などを袂の中に入れて往つて、勇ちやんにやることもあるが、其時はいつも紅葉のやうに奇麗な、優しい手を重ねて、さうしていたゞくのです。些少なる菓子で、此神樣の使で、もある樣な、無心無慾無邪氣な、勇ちやんの心を滿足せしむることが出來ると思へば、實に愉快な感じを起すので、若し其要求を充たすことが出來ない時は、私は何か罪でも犯したような心地がされ、ほんに勇ちやんに對して氣の毒でならないのです。私は自分で好ですから、いつもビスキットやドロップの一斤位は、机の中へ入れて置き、勇ちやんが婆や伯母樣の背におんぶして、私の所へ來た時は、いつも之をやることにして居たです。何時頃のことでしたか、勇ちやんが婆やと遊びに來た時に、折あしく用意がなかつたものだから、之は困つたと內々心配して居たが、果然うま〳〵の要求が出たのです。町へは近所といつても七八町も往かなければならないので、私は殆んど當惑した。此時は何か重大なる罪惡でも、犯したよう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に得ならず不快であつたが、仕方がないから、『勇ちやんお氣の毒様、うき／＼なくなつて子、こんどお出での時たアんと上げますよ』となだめすかしたら、分つたような分らぬような風であつたが、夫でも二の矢は出ず。自然に別の方に勇ちやんの心がそれたものだから、やつと重荷をおろしたやうに嬉しかつた。それから何時でも私の机の中には、多少のお菓子が這入てる事になつたのです。

先達私は、兵士に往つて皈つて來た近親の家へ、招かれて往つた皈宅途に、勇ちやんの家へ寄つたのです。夜の九時近くでしたが、勇ちやんはまだ眠がらず、兄様と、大人しく遊んで居たので、私は不意に勇ちやんと呼んだのです。さうすると、勇ちやんはつト顔を上げて四方を見廻したが、私の所は見附からないと見えて、不思議さうにして居るのです。今勇ちやんと自分を呼んだのは、どうやら聞いたような聲だが、ハテ誰だろうなど丶、多分其小さな胸の中に疑問が起きたのであらう。私は再び其名を呼んで、明るい見易い所へ出るや否や、勇ちやんはいつものことであるが、ニコツと笑ひ、兩手をバタ／＼ツと、殆度鶏の羽叩きをするようにして、同時に急はしく私の方へ驅け附けるのです。ハイ今晩はと私が挨拶をすると、ちやんとお跪座をしてそうして、頭を丁寧にさげるのです。折よくお土産に貰つて來たお菓子がある故、取敢へず包を開いてやると、勇ちやんは直ぐに私の膝に乗り、そしておとなしくそれを食べて居る。子供といふ事には無經驗な私も、あまり姿の可愛らしいに、思はず勇ちやんの頬に接吻したのです。夫でも勇ちやんは、一向厭がりもせず、反つてキッキッと聲を立て丶笑ふのです。

一つのおくわしを食べて終つてから、私の膝を離れてバタ／＼と駈けて往つたが、座敷の方から一冊の本を持て來て、亦私の膝の上でそれを一々讀む眞似をする。私は試みに中にある繪を指さして、之は何？これはなに！と尋ねると、大抵は間違なく答へるのです。男と女、少年と年寄、かめ、つる、とんぼ、かに、はな、うし、ねこ、いつこ（狗兒）など苦もなく答へたが、せみを**てふま**（[illegible]）といつたのと、軍隊の行軍隊形のさまを見て、**ばけもの**といつたのには、滿座腹を抱へて笑つたのでした。夫から二度目に亦兵隊を聞いた時に、**あかッ**と答へたには、何の事だか、お父様もお母様も分らなかつた。私も始は合點がゆかなかつたが、段々考へて見ると、いつか勇ちやんが私の宅へ遊びに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來た時、殆度步兵が一人遊びに來て居たものだから、私は勇ちやんに向つて、あれはあかい兵隊さむだと說明して聞かしたことがあつた。勇ちやんは多分夫を思ひ出してあかッと云つたのだろうと、私の通譯で何れも始めて了解した譯でした。子供は思の外、物覺のよいものです。

　夫から亦勇ちやんは、お家に居て私の事を思ひ出す毎に「にちむら」といつて、婆やゝお母樣にせがむのださうで、幾ら云つても聞き分けない時は、婆やがお母樣におんぶして、つれられて來る。さうして私の所へ來ると、私とお仲間になつて、色々面白いお話をしたり、イチイチを讀んだり、おうまをたべたりして、おとなしくいつまでゝも遊んでるのです。或日の事でした。勇ちやんは蜜柑を食べて終ふと手が汚れたので、バヽ〳〵といつて洗つて吳れとの要求。お母樣が洗つてやろうと仰有つても、私にでなくては厭だといふのです。そして、私を導いてながしの方へ連れて行くのです。溫い湯で洗つて夫から手拭で拭ふてやるまで、何でも私の云ふまゝにして居ました。

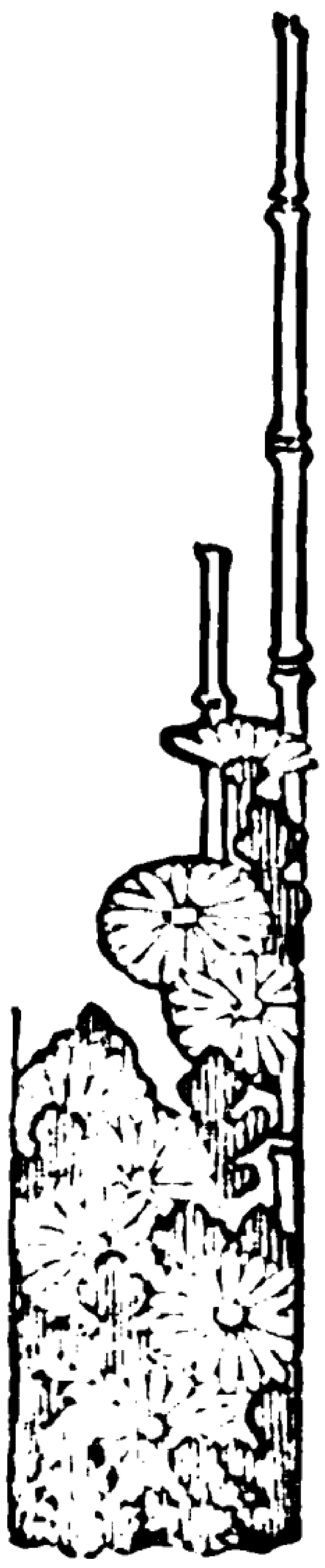
　此頃は遠方になつた爲めに、勇ちやんと私の間も遠々しくなつて、始終顏を見合す事が出來なくなつたが、勇ちやんは矢張折々私のことを思ひ出してるでせう。さうして思ひ出すごとに、薄赤くやわらかな髮で包まれた、姿のよい頭を斜に右の方に傾げて、眉毛の根元へ名許りのさゝなみをよせ、眞圓な眼を少しく角だて、小さな可愛らしい口をおちよぼ口にして、婆やを搖動つて「にちむらいこうー」とせがんで居るであらう。と思ふと、其優しい愛らしい勇ちやんの姿が、本の上へも机の上へも掛物のところへでも、ところかまはず幻げにチラつき、そして其鈴のような聲が、何やら耳元で呼んでるような氣がしてならないのです。

　あゝ子供は眞に可愛いものです。露いさゝかも邪心なく邪氣なく、少しの汚れもない淸淨無垢の子供程、可愛く優しく、いとしいものはないのです。殊に私は今迄のうちに、勇ちやんほど可愛いと思つた子供はツイぞなかつたのです。私は此勇ちやんに依てどんなに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

深い教訓を得たでせう。人が其生涯に取るべき種々の事業中、此子供を完全に育てること程大切な事業はない。計り知られぬ程奥の深いのは神の心で、吾人に可愛い子供を幾人も預けて置き乍ら、別にかう云ふ風に育てるべしと註文をなさらぬ。萬事は其親々の心一つに任してあるの故、考へて見れば責任が却て重い。そこで、私は今此や彼やを思ひ合し、端なく痛切にある感動に打たれます。それは、勇ちやんのやうに有福な兩親を持つて居る子供は幸福であるが、反對に貧亡人の家庭に產れた子供はどれ程不幸であるかと云ふ事です。親は只日々口を糊すると云ふ事ばかりに心身を勞し、其子供の成長の上の事などには一切考へを向ける餘裕がない。餘裕がないのみならばまだ宜しいが、生命を續けると云ふ單なる慾望を滿たす事さへ出來ぬ困窮は、知らず〳〵其親をして人情に叛かしめ、子供を賣るの勞働を強いるのと云ふ罪惡に落ちます。貧民窟などの暗憺たる親子の事情は、實に此世乍らの地獄を見るの思ひがあります。神は平等で、どんな家庭にでも可愛い子供を與へて下さるのに、只社會の組立方が惡い爲に、玉の如き精靈を幾個となく埃溜の中に投捨てゝ、又も罪惡の種子を作るとは何と云ふ悲慘な世の中でせう。又一方富者の家庭では、黄金の光の中から常に淫靡の風吹きすさみ、肉慾の爲めに神を瀆す、の果は、盛んに妾腹、私生兒と、生れ乍らにして不幸な子供を作り出します。私は此等の事實を繰返して冥想する毎に、天國は亡ぶと叫ばぬ譯には行かぬ。何となれば、子供は實に吾人の理想の權化ではありませんか。吾人の理想を其儘次の時代に實現するものは現在の子供ではありませんか。

私は結婚して既に三年、而も未だに子供は授からない。けれども、勇ちやんのやうなのを見るに付け、前述の感慨が更に深きを增すのであります。



筆ついで　浩山

●公明正大の生涯

嘗て予は人間の生涯を四大別して左の如く記した事があつた。

一、慾界に齷齪する人
二、色界に蕩樂する人
三、無意味の生活
四、理想を認めて愛の道に精進する人

第一、二は無論予等の排する處である。第三に至つては、其心に邪氣なくして、可愛らしい點のないではないが、予等はどうしても此樣な哀れな生涯は送りたくない。獨り第四は義人、勇者の集りで、人生は濁れるが常なる間に、此小さなサークルの人ばかりは、何時も清き靈火を握り、天の一角と私に氣派を通じて居るのである。

併し乍ら、世の中の人は皆が皆迄勇者でなく、大才でなく、偉人でない。即ち、第四の生涯に一身を委ねやうとするには、立派な精神と才能とを併せ有した人でなければならぬ。これ等の理由から、更に予は次の一項を第五として附加へて見た。

五、公明正大の生涯を送り得る人

公明正大と云へば非常に立派な文字のやうに聞えるが其內容は極めて平易である。公明正大の生涯は必しも立派な家を選ばず、位階の高い人のみを懌ばぬ。それは望む人の心次第にある事に、どんな山村の百姓家へでも、九尺二間の棟割長屋へでも往くべき所へは這入つて來る。

公明正大の生涯とは即ち欺かざるの生涯を云ふ。人を欺き世を欺き、甚しきは自己を欺くと云ふやうな生涯ならば、如何程成効して居ても全く失敗の生涯と云はねばならぬ。唯貴族の家に產れたと云ふ丈で、無學文盲の伜が殿樣となつて氣儘氣隨の振舞ひをする。實際心に感じもせぬ事を大袈裟に吹聽して、慈善者の眞似をする貴夫人仲間、黃金を撒いて世に出た無能代議

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

士、阿諛と世才で官職にあり付いた當世男、節操を賣つて富者の妻となる女等皆なそれである。

予等は只これ丈のものである。また才能を飾るにも及ばねば、空財布に石を入れて素人を驚かす必要もない。只ある丈の力を展いて神の前に働きさへすれば好い。鍬を持つも可、鑿を取るも可、電車の運轉手となつて人の爲に盡すも亦可なり。公明正大の生涯とは其心常に安々として、何物にも恐れざる生涯の意味ともなるである。

●香奠返しと出産披露

香奠返しと云ふもの丶可否は姑らく措き、此間知己の家でこれは面白い思ひ付であると感じた事がある。それは、亡くなつた人の生前の肖像をキャビ子又は手札形位迄に寫眞屋で復寫せしめ、それを更に體裁の好い枠に入れて、香奠を受けた先々（幾十軒あるか知らぬが）へ送る事である。受けた家では之れを額面として座敷に飾るもよろしく、又親しい友人のでもあらば、書齋の飾棚、乃至は机上に立かけて、日夕思ひ出の紀念とするも面白い。

予はつまらぬ紋切形の儀式虚禮には感心せぬが、か丶る類の極めて新しい工夫で、志　のある所を通せしめるのは、趣味の深い善い事であらうと思ふ。

次に他の一つの面白い趣向は、子の産れた時に工夫したと云ふある人の話。その工夫は、葉書二倍大の洋紙に英詩を印刷させ、それへ赤兒の寫眞を一枚づ丶添えて出産披露に及んだと云ふ。英詩は大抵の方は知つて居る、かの英詩人テニスンの名什『イノック、アーデン』中の一節で、其文句は In him woke, with his first babe's first cry, the noble wish to save all earning to the uttermost, and give his child a better bringing-up than his had been, or hers; これ丈。意味は、小兒が産れて兩親の心には、出來る丈の費用を節し、自分等が受けたよりはもつと／＼立派な教育を附けたいと云ふ、高尚な願望が目を醒した。と云ふやうな事である。これは少々ハイカラに過ぎるかも知らぬが、なか／＼工夫に意味がある。予は此種のやり方が早く諸方に行はれるやうになつたらばと思ふ。古い／＼習慣にのみ拘泥して、折角の金を殺して使ふのは決して賞た事でない。

●財産に對する觀念

あの生存競爭の劇烈な米國にあつて、其國人は財産と云ふものにどんな風の觀念を持つて居るか、此點に就て『教育公報』に、穗積氏の視察談として一寸面白い

注意すべき事柄が載つてあつた。今少しこれを借用して諸君に紹介する。

亞米利加人が勞力神聖の念の盛んなる一例は、聖路易の博覽會は二里四方もあつて、巴里の博覽會の十一倍もある非常な廣い面積を有するのであるが、場内は椅子車即ち椅子に車の附いた乘物を後ろの方から押して歩く、足弱の御爺さん、御婆さんなどは皆それに乘つて見物します。其車夫は一定の服を着て居りますが、是は悉く大學生である。大學生が車を押して車賃を取つて居る、博覽會事務局は大學生に限つて鑑札を與へると云ふ事である。是は學資を作る爲でありませうが、前と後の別こそあれ、堂々たる大學生が數百萬人の集まる所で人力車夫の業を執り、毫も愧ぢる色は見へぬ、彼等は勞力神聖と云ふ考を持つて居るから何とも思つて居らない。南部諸州の大學などでは、例へば春期の耕耘、秋期の收穫等にて農家の忙しい時分には大學生が百姓に雇はれて働くと云ふことである。それで被傭賃を取つて學資に充て、阿父さんの脛を嚙ぢるとか云ふ如きことのないやうにする。總てそう云ふ風で、日本人でも中學生で皿洗に雇はれて居る人がある。大體俄分限、一代身上を得た人の子弟の教育と云ふものは一つの大問題で、俄分限、俄貴族、即ち國家に功勞あり俄に貴い地位を得たる家、或は商工業に依て急に巨萬の富を得た人の家々の子弟教育は極めて六かしいもの、十中八は失敗するものである。米國の富豪は殆んど皆な俄分限であると言つて宜しい。此等の子弟と云ふものはどうなるかと云ふことは一つの面白い問題であると謂て考へて居りました、且つ亞米利加人の財產と云ふ考と我々の財產と云ふ考とは縱と横の違ひがあると私は思ふ。日本人の

財產と云ふ考は縱のになつて居つて、丁度柱のやうなものである。我有する財產は家の財產であるか、又は父兄より受けたもの、樣に考へ、我が作つた財產も當然子孫が受繼ぐもの、樣に考へて居る、亞米利加人の財產と云ふ考は横になつて居る、個人の財產と云ふ考が強く、相續を云ふ念は極めて薄い。財產は一代のみに限られて居るものであると考へて居る。子孫も父祖の財產を當にする念が薄い。故に自分の死後には大學に寄するとか慈善事業を起すとか、種々の公益事業に寄捐することが流行するのも畢竟個人財產の念が強く、相續の念が薄いからであると思ふ。日本人の財產の觀念が柱なら、彼等の財產の觀念は鴨居か敷居の樣なものであります。

流石は米國で、其精神が男らしく健氣である。人民が勞働を尙ふ事かくの如く厚く、そして、財產に對する一般の觀念が、兎に角此所まで進歩して來れば、國家に穀潰しと云ふ人種がなくなつて、餘程健全に富有になるに違ひない。

▲正誤　前號二十五頁上段（Cmplex の上に not を脫す。

▲島根の錦川子に。御盡力を謝す。

▲京都松木氏の住所は「堺町通御池北」です。

▲交詢欄は次號より始めます。（以上、記者）

▲雜誌御注文などの時返事を要する手紙には返信料を入れて置いて下さい。（由分社共掛）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實際的にして趣味清新

日本の家庭

初號附錄

第壹號二三月十日發行　定價金八錢　郵税金五厘

▲**家庭の團欒**　小林習古畫伯筆　石版十度刷大判

▲**口繪　武家時代の教育**　寫眞版

▲發刊の辭……記者

▲**日本の家庭に望む**　學習院教授　大村仁太郎

▲發刊を祝ふ……女子高等師範　佐方鎭子

▲**家政雜談**……成女學校講師　嘉悦孝子

▲音樂のはなし……白井規矩郎

▲**主婦のつとめ**……愛國婦人會評議員　山脇房子

▲主婦の心得……三輪田女學校長　三輪田眞佐子

▲**中山幸子刀自を訪ふ**……記者

▲兒童に關する俚諺……女子高等師範　東基吉

▲**衣服の衛生**……女醫　前田園子

▲福島少將の家庭……記者

▲**室内の裝飾法**……女子大學講師　松浦政泰

▲家庭の軌範十則……佐治實然

▲**米國婦人の新職業**　▲猫のまねした兎……そちさん　トントン、チクチク……ばんがく

▲奥ゆかしき妻君……志葉田ふみ子

▲未婚の**女子**に與ふ　▲**春日局**　料理、編物、交際法、和歌、學校案内等

▲巻中挿入　**寫眞版**　木版　**數十個**

▲**定價**　六冊前金五十錢(郵税共)　十二冊前金九十五錢(郵税共)

大好評の新著

◎**我子の惡徳**　學習院教授　大村仁太郎先生編述　定價金六拾錢　郵税八錢

◎**太郎は如何にして教育すべき乎**　大村仁太郎先生譯補　定價金六十錢　郵税八錢　三月十日發賣

◎露國征伐　**日本魂雄**（やまとたましを）　樋口勘治郎先生編　定價金三拾錢　郵税四錢　三月十日發賣

◎武家時代　**少年士道の訓**　文學士　久保得二先生編　定價金六十錢　郵税八錢　三月十日發賣

發兌　東京神田表神保町二番地　**同文館**

大賣捌所　東京堂　東海堂　北隆堂　良明堂　一　大阪　寶文館　盛文館

登録商標

五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ウヷイオレット煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろいねり

●壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい ねり製 定價〈大罎二十錢 小罎十二錢

ヴワイオレット水製 定價〈大罎二十五錢 中罎十五錢 小罎十錢

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は 歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成臨體等を以て配劑しあるを以て皮膚を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌等の色を白變せしめきめをこまやかに、にきび、そばかすあせも等を生ぜす御肌へを清々しく天然の色白きに至るべし『菫おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會祝席雜踏の塲所に臨て諸々の惡臭を退け不淨を拂ひ心氣を清爽快活ならしめ衛生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●皮膚艶白劑壽美禮あらい粉

●綠、藍、紅彩蝶番ひボックス入三錢 罐詰六錢五厘 袋入壹錢

●弊舗製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せし物なれば朝夕此洗粉を御用ひ給へば漸々皮膚の色を白くし美くして艶を出しきめをこまかに常に御肌を清々しくなし總而皮膚の患ひにかゝる事なし

●常に髮洗ひに用ひ給へば毛の拔る病を豫防し毛のくせを直し美くして艶を出し髮のねばりを取り油あかふけ等を生ぜす又絹綿布等に用ひて能く汚垢を落す總て物を漂白する性あり

●使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混ぜ入浴の際用ふるを良とす

登録商標

西洋色白くなるあらひ劑

SUMIRE.
Washing Powder

壽美禮あらい粉

東京東兩國
元町兩國橋通り

製造本舖

伊勢吉壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勧工塲各劇塲運動塲に有り

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り

（電話　新橋）八一六番　二八〇八番

飯倉支店	飯倉四ツ辻	電話新橋一五七四番
赤坂支店	赤坂表一丁目	電話新橋二〇六八番
四谷支店	四谷大通り	電話番町五一〇番
神樂坂支店	牛込神樂坂	電話番町六三〇番
本郷支店	本郷二丁目角	電話下谷七二二番
須田町支店	神田須田町	電話本局二〇七三番
米澤町支店	兩國米澤町	電話浪花二五九〇番
吾妻橋支店	淺草吾妻橋通	電話下谷七三三番
品川支店	南品川一丁目	電話新橋一一三九番
横濱支店	横濱吉田町	電話横濱一三〇四番
代理店　田中銀行	日本橋坂本町	電話浪花二四〇番

外科皮膚病

梅毒　痔瘻　外科的婦人科　尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際　出雲橋　加藤病院

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸　毎月曜午前中

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

電話本局八八八番　一三八五番

院長　醫學士　高田畊安

診察　毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室増設落成

南湖院

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱

（停車場所在）

副院長　醫學得業士　林　止

診察　院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

高田病院施診所

東京麴町區三番町三十番地

（市ヶ谷停車場附近）

主任　醫學士　松田三[illegible]

診察　毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施
生徒ニ示シ處方箋ヲ與フ○共診聽講

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持薬として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 二日分弱金拾錢　廿二日分（常備用）金壹圓　十日分金五拾錢　六日分金三拾錢　四日分金貳拾錢

本舖 東京市日本橋區堀町 藥研 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覧會
名譽銀牌受領

發賣元
東京
小林富次郎

粉製
赤罐入
發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり
能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし
遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

發兌元
大阪
小林支店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA